

看護学科受験生への大学説明会の内容の検討
—看護学校1日体験入学高校生と大学在学学生へのアンケートから—

淘江 七海子*, 吉本 知恵, 竹内 美由紀, 合田 加代子, 堀 美紀子, 細原 正子

香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科

An Evaluation about the Information for Students preparing for an
Examination
— Views who attend the Entrance of Experience of Nursing School
and a Survey to the Student of College —

Namiko Yurie*, Chie Yoshimoto, Miyuki Takeuchi, Kayoko Gouda,
Mikiko Hori and Masako Hosohara

*Department of Nursing, Faculty of Health Sciences,
Kagawa Prefectural College of Health Sciences*

Key Words: 大学 (college), 看護 (nursing), 入試 (entrance examination), 情報 (information)

*連絡先: 〒761-0123 香川県高松市牟礼町原281-1 香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科 淘江 七海子

*Correspondence to: Namiko Yurie, Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Kagawa Prefectural College of Health Sciences, 281-1 Murecho-hara, Takamatsu, Kagawa 761-0123 Japan

はじめに

「受験生の大学進学に関する意識調査」¹⁾によると、高校生は進学したい大学を選択するにあたって、将来の職業像を見据えており目的志向が強いということ、大学の情報としては、入試・偏差値の情報については比較的入手しやすいが、入学してからの教育の中身や教育によって身につく知識やスキルについての情報が不十分だと感じているとの結果が示されている。

本学においては、前身である県立医療短期大学で「高校生の看護学校一日体験入学」を平成11年度から実施しており、平成16年4月香川県立保健医療大学開学からも引き続き開催している。本学大学説明会も、大学選択の動機につながるような企画をしていきたいと考えた。そこで、今回、企画のための参考資料とする目的で平成16・17年度の実施結果と在校生へのアンケート結果の分析を試みたので報告する。

「高校生の看護学校一日体験入学」 実施の経過

平成4年に「看護師等の人材確保の促進に関する法律（平成4年法律第86号）」第14条の規定に基づいて、設置された香川県ナースセンターは、高校生の看護学校一日体験入学を看護の心普及事業として、「看護の日・看護週間」記念行事、ふれあい看護体験などと共に毎年行っている。

本学における「看護学校一日体験入学」については、高校生の参加しやすい時期と受け入れ可能な時期を考慮して開催時期を決めて、香川県看護協会と共催で、大学の広報公開講座委員会の行事として実施している。

香川県看護協会ナースセンターのまとめによると、平成16・17年度における香川県での実施状

表1 香川県における「看護学校一日体験入学」
実施状況

学校名	A校(本学)		B校		C校	
	17年度	16年度	17年度	16年度	17年度	16年度
実施日	8・26	8・6	7・26	7・27	7・22	7・21
募集数	50	50	50	50	50	50
応募数	72	85	43	43	54	51
参加数	57	72	40	38	53	46
入学数	14	14	2	3	9	13

況は、表1のとおりである。本学への参加者の入学状況をみると、平成16・17年度共に14名であり、入学生の3割弱が体験していることになる。

平成17年度に配布した本学のプログラムは図1のとおりである。

研究方法

1. 平成16・17年度の実施結果

平成16年度および平成17年度本学で実施した「看護学校一日体験入学」に参加した高校生129名に対して、当日（平成16年8月6日、平成17年8月26日）プログラム終了後にアンケートに協力してもらった。

参加目的とその達成状況、参加状況、看護体験の経験状況については単純集計し、参加して印象に残ったことの自由記述については、記述内容を3人の研究者が独自にコード化し、協議して分類した。

2. 在学生へのアンケート

説明会企画にあたって、大学進学の方法や看護系大学の選択理由さらに入学前後のイメージの違いなど実態把握をするために、平成17

平成17年度 プログラム

香川県立保健医療大学 高校生の看護学校一日体験プログラム

平成17年8月26日(金)

- 9:00 集合・受付
- 9:15～ オリエンテーション
- 9:30～ 看護技術の体験および施設見学
手洗い、救急蘇生
沐浴・おむつ交換、ジャケット着用による妊婦体験
褥創予防のための体圧分布測定の実験、
訪問看護支援システム
(在宅看護監視システム)の実際
見学(実習棟・講義棟・厚生棟) など
- 11:30～ 在校生との交流・アンケート
- 12:00頃 解散



図1 平成17年度
高校生の看護学校一日看護体験プログラム

年10月5日に大学1年生49名, 同年10月6日に2年生49名に調査用紙を配布し, 留め置き法で後日回収ボックスに投函してもらった。

調査内容は文献2), 3) をもとに, 大学進学
の主な目的, 看護学を専攻した主な理由, 入学
前後のイメージのギャップ, 大学で得たこと,
体験入学の影響および大学説明会へ希望するこ
ととした。

単純集計並びに「大学で得たこと」につい
ては学年間, 「入学前後のイメージのギャップ」
については学年間と体験入学参加の有無によ
る χ^2 検定をおこなった。統計ソフトはSPSS
12.0J for Windows を用い, 有意水準は0.05
とした。

倫理的配慮

1. 体験入学については, アンケート実施時点で,
参加者にこのプログラム中に撮影した写真とア

表2-1 学年別参加状況

	17年度	16年度
高校1年生	1名	4名
高校2年生	5名	18名
高校3年生	51名	50名
計	57名	72名

表3 体験入学の参加目的 (複数回答)

	17年度		16年度		合計	
	n=57	n=72	n=72	n=129	n=129	n=129
進学を希望	43	84.3	48	66.7	91	70.5
大学見学	31	54.4	48	66.7	79	61.2
看護技術の経験	41	71.9	47	65.3	88	60.2
看護という職業	26	45.6	21	29.2	47	36.4
その他	2	3.5	1	1.4	3	2.3

表4 参加して印象に残ったこと

	17年度		16年度		合計	
	n=57	n=72	n=72	n=129	n=129	n=129
環境(施設・設備)	18	13	54	29	72	22
看護体験	48	35	68	37	116	36
学生・教員との交流	28	21	42	23	70	22
看護という職業	7	5.1	5	2.7	12	3.7
総体的感想	36	26.3	15	8.2	51	15.9
合計	137	100	184	100	321	100

ンケートの集計結果を香川県看護協会などへの
報告に用いることがあることを了解の上で記入
してもらった。

2. 在学生へのアンケートについては, 学生に統
計的に処理するので個人は特定されないこと,
記入は自由意思であることを文書で説明した上
で協力を得た。

研究結果

1. 2年間における体験入学の実施結果

- 1) 平成16・17年度の参加状況

学年別, 高校別に表2-1, 2-2 に示した。
参加者は平成16年度が72名, 平成17年度
が57名であった。年度毎の差はあるが, 高
校3年が7割以上を占めていた。高校別にみ
ると, 高松西高等学校, 三木高等学校, 高瀬
高等学校からの参加者が1校あたり10名以
上であったが, 受験状況または入学状況と
は必ずしも一致していない。

表2-2 高校別参加状況

高校名	17年度	16年度	合計
高松西高校	8	17	25
三木高校	7	8	15
高瀬高校	7	3	10
善通寺第一高校	7	2	9
高松北高校	3	4	7
三本松高校	1	6	7
観音寺第一高校	4	3	7
高松商業高校	2	3	5
香川中央高校	1	4	5
丸亀城西高校	4	1	5
桜井高校	0	5	5
坂出高校	0	5	5
高松第一高校	1	3	4
土庄高校	2	2	4
英明高校	2	1	3
観音寺中央高校	1	2	3
志度高校	1	1	2
琴平高校	2	0	2
高松東高校	1	0	1
高松南高校	1	0	1
大手前高校	1	0	1
誠陵高校	0	1	1
津田高校	0	1	1
小豆島高校	1	0	1
計	57	72	129

2) 参加目的 (表 3)

「進学を希望している」・「看護技術を経験する」および「大学見学」は6割以上のものが目的としてあげていた。また、1名の高校生を除いて、参加目的は達成できたと答えていた。

3) 印象に残ったこと

参加者の意見としての自由記述内容を分類した結果が表4である。「看護体験」が4割近くを占め、続いて「環境 (施設・設備)」,「学生・教員との交流」があげられていた。

詳しい内容は表5に示した。「看護体験」については一部年度によって内容設定が異

なっているが、救急蘇生・手洗い・妊婦体験・沐浴・おむつ交換などのプログラムを通じて技術習得の難しさ、楽しさや緊張感などの具体的記述がみられた。「環境」では施設設備の充実や新しさが、「学生・教員との交流」では入試やカリキュラムについて知ると同時に、学生や教員に対する印象が述べられていた。さらに「看護という職業」では自分の希望や夢を膨らませる記述がみられた。

2. 在学生へのアンケート結果

1) 対象の概要

大学1年47名, 大学2年25名, 合計72名(回

表5 印象に残ったこと

		17年度	16年度
環境に関すること		設備(きれい、充実、医療機器、在宅看護監視システム)大学(環境がよい、大きい、新しい)	設備(きれい、本格的、病院みたい、手術室)大学・校舎(きれい、清潔、新しい、広い、落ち着き)
看護体験	救急蘇生	難しい、生き返らせることができた、人形だけ絶対助けたかった、楽しかった、生き返させられず残念、位置と力加減が難しい、体力がいる、	難しい、体力がいる、生き返させられず残念、楽しかった、勉強になった、リアル、大変さと重要性、「トリビアの泉」でみた人形だった
	手洗い	汚れが残った、先輩の手本を見てするときれいになった	チェックできた、洗えていなかった、今後に生かす
	妊婦体験	大変さ、よい経験、思っている以上に辛かった	体を使いにくい、座ったり立ったりに力がある、
	沐浴・おむつ交換	思ったより頭が重かった、かわいい、楽しい、よい経験、ぎこちなかった	かわいい、難しい、楽しい、姪にやってみたい、
	高齢者体験		手足が曲がらない、視界も見えない、生活がしにくい、足元がみえない、トイレや階段も不便、自助具は便利
	在宅看護監視システム・体圧分布測定	在宅看護装置、体圧分布の測定をしたかった、床ずれは痛そう	
	全体	よい経験	楽しい、勉強になった、よい経験、緊張した、日常に取り入れる
学生・教員との交流		内容(入試、実習)学生(面白い・接しやすい・丁寧・やさしい・楽しい・親切・笑顔・わかりやすい) 教員(おもしろい、接しやすい、やさしい、楽しい、丁寧、わかりやすい)たくさん話せた・もう少し時間があつたらよい・質問しやすかった	内容(実習、受験、大学生生活カリキュラム)、学生(親しみ・楽しい・明るい・気さく・きれい・優しい・親切・かわいい・感じがよい・丁寧・わかりやすい・面白い・男子学生) 教員(温かい、明るい、楽しい、やさしい、わかりやすい)
看護という職業		救命救急の看護師になりたい、助産師になりたい、たくさんしなければならぬことがあるけど、目標をもってやりたい、働く場がいろいろあることに驚いた、看護師はすばらしい、子どもから大人のすべての人にかかわれるよう頑張りたい	看護師になりたい、やりがいのある興味のある仕事、人の命に関わる大変な仕事、さらに興味がわいた
総体的感想		是非入学したい、時間配分も良かった・学生がイキイキしていた、体験と学生との交流がよかった	入学したい、質問がしやすかった、楽しかった、勉強になった、また参加したい、全体会の説明で不明なことがわかった、男子の入学率がふえているのは嬉しい

収率 73.5%) から回答が得られ, 対象の出身地は香川県 47 名 (65.3%) 香川県以外 25 名 (34.7%) であった。

2) 大学に進学した主な理由

表 6 のように, 「将来にいかせる資格がとれる」が 68 名 (94.4%), 「仕事や生活に役立つ実用多岐な知識・技術が学べる」が 53 名 (73.6%) であった。その他の記述には, 「4 年間遊べる」や「大学生活を楽しみたい」等があった。

3) 看護学を専攻した理由

表 7 のように, 「将来の仕事にいかせる資格がとれる」が 55 名 (76.4%), 「学んだ知識・技術がこれからの仕事や生活に役立つ」

が 44 名 (61.1%) であった。その他の記述には「自分の入院体験」, 「小さい頃からの夢」や「経済的な理由」等があった。

4) 入学前の看護学校一日体験入学への参加

参加したことが「ある」が 30 名 (41.7%) であり, そのうち香川県立保健医療大学が 23 名 (76.7%) 本学以外での参加経験のあるものが 23 名 (76.7%) であった。

参加による影響については「受験を迷っていたが決定した」が 12 名 (40.0%), 「参加前より受験を決めていたが, 一層関心が高まった」が 11 名 (36.7%) であった。一方, 「受験への影響はなかった」というものが 6 名 (20.0%) いた。

病院や施設でおこなわれている一日看護体験への参加は 37 名 (51.4%) のものが経験していた。

5) 大学入学前後のイメージのギャップ

表 8 に示すように, 「どちらともいえない」が 33 名 (45.8%), 「多少あり」が 19 名 (26.4%), 「大いにあり」が 10 名 (13.9%) 「ほとんどない」が 9 名 (12.7%) であり, 残り 1 名 (1.4%) が「全くない」と回答した。

「大いにあり」「多少あり」と答えた人の理由の主なものは, 「充分に考えていなかった」ので, 思ったより大変, 「学生が少ない」, 「部活動が積極的でない」, 「技術のみでなく, 覚えることや学ぶことがたくさんある」, 「記録を書くことが多く, 理系というより文系である」等であった。

学年別による差の検定結果は「多少あり」「どちらともいえない」において有意差があった (表 8)。2 年の方が「多少あり」と感じており, 1 年は「どちらともいえない」と感じていた。

表 6 大学進学目的 (複数回答)

項目	n=72	
	名	%
資格取得	68	94.4
実用多岐な知識・技術	53	73.6
大学卒業	16	22.2
その他	3	4.2
大学院への進学	1	1.4
社会の矛盾や問題の分析	1	1.4
教員や仲間との交流	1	1.4
部活動やサークル	0	0
	143	100

表 7 看護学専攻の理由 (複数回答)

	n=72	
	名	%
資格がとれる	55	76.4
知識・技術が役立つ	44	61.1
看護というイメージ	16	22.2
教員や家族のすすめ	12	16.7
その他	7	9.7
たまたま合格	4	5.6
社会の矛盾や問題の分析	1	1.4
とくになし	1	1.4

表 8 学年間における入学前後のイメージのギャップ

	n=72											
	合計				1年(n=47)				2年(n=25)			
	参加体験有		参加体験無		参加体験有		参加体験無		参加体験有		参加体験無	
	名	%	名	%	名	%	名	%	名	%	名	%
大いにある	10	13.9	62	86.1	4	8.5	43	91.5	6	24	19	76
多少ある	19	26.4	53	73.6	8	17	39	83	11	44	14	56 *
どちらともいえない	33	45.8	39	54.2	26	55.4	21	44.6	7	28	18	72 *
ほとんどない	9	12.5	63	87.5	8	17	39	83	1	4	24	96
全くない	1	1.4	71	98.6	1	2.1	46	97.9	0	0	25	100

* p<0.05

表9 学年間における「大学で得たこと」の違い

	全体		1年(n=47)				2年(n=25)					
	あり		なし		あり		なし		あり		なし	
	名	%	名	%	名	%	名	%	名	%	名	%
1.サークル・アルバイトなど社会体験	43	59.7	29	40.3	33	70.2	14	29.8	10	40	15	60*
2.学内外の社会人との関係構築	28	38.9	44	61.1	21	44.7	26	55.3	7	28	18	72
3.家族関係の再認識	30	41.7	42	28.3	23	48.9	24	51.1	7	28	18	72
4.先輩・後輩・友人関係の構築	42	58.3	30	41.7	32	68.1	15	31.9	10	40	15	60*
5.専攻した学問	27	37.5	45	62.5	18	38.3	29	61.7	9	36	16	64
6.先生との出会い	12	16.7	60	83.3	4	8.5	43	91.5	8	32	17	68*
7.臨地実習での体験 (n=25)	19	76	6	24					19	76	6	24
8.その他	3	4.2	69	95.8	2	4.3	45	95.7	1	4	24	96

*P<0.05

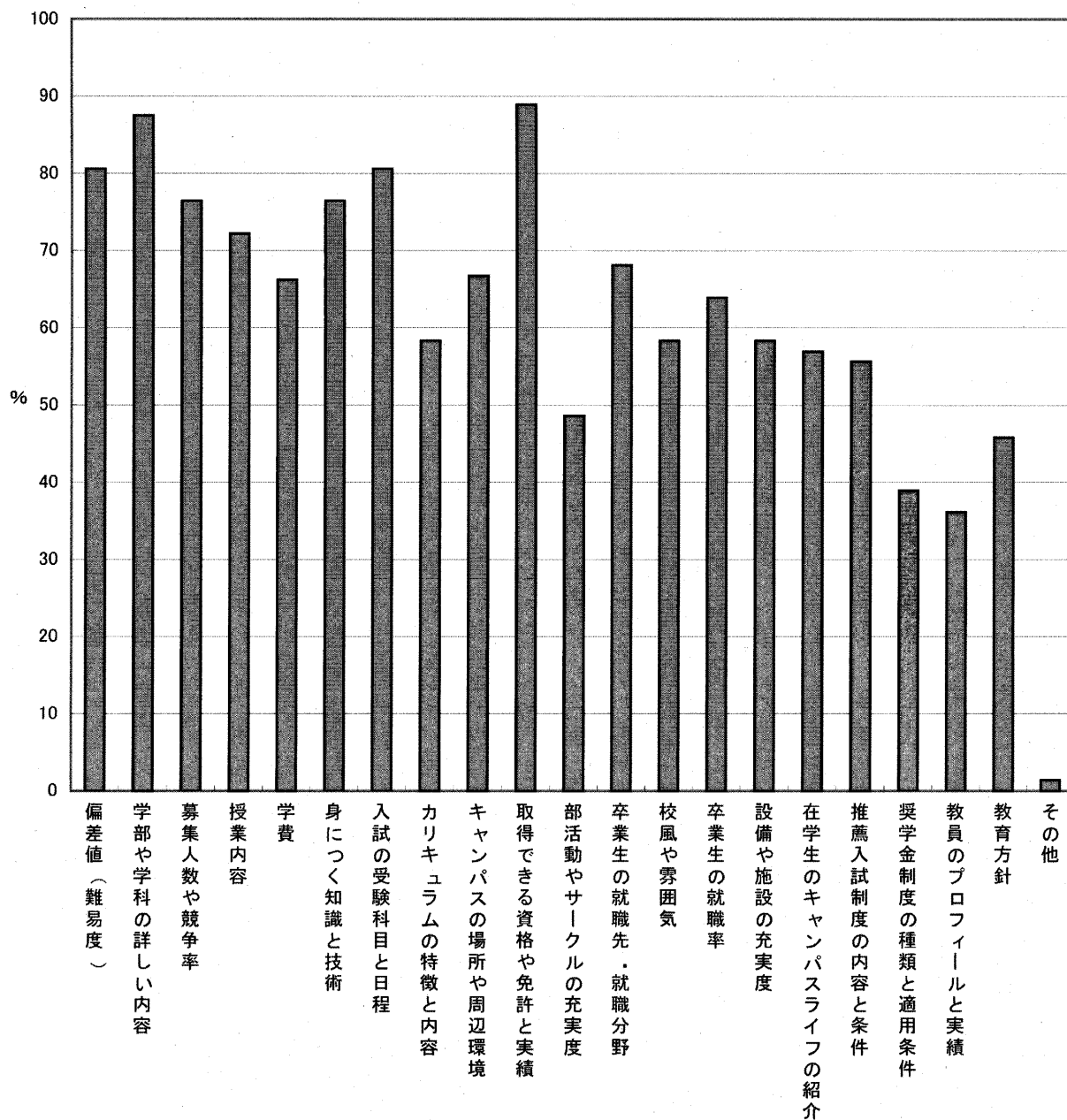


図2 入学前に必要だと思う情報 (複数回答)

さらに、看護学校一日体験入学参加の有無による有意差は見られなかった。

6) 大学で得たこと

表9に示すように、1位が「サークル活動やアルバイト・ボランティアなどによる社会経験」43人(59.7%)、2位が「先輩・後輩・友人関係の構築」42名(58.3%)、3位が「家族関係の再認識」30名(41.7%)であった。

学年間における差の検定結果では、「サークル活動やアルバイト・ボランティアなどによる社会経験」と「先輩・後輩・友人関係の構築」において、1年が有意に高く、「先生との出会い」においては、2年が有意に高かった。「臨地実習」については、1年との比較は未履修のためできないが、2年は19名(76%)が第1位にあげていた(表9)。

7) 入学前に必要と思う情報について

結果は図2のとおりであり、7割以上の学生が必要と回答した項目は「偏差値(難易度)」、「学部・学科の詳しい内容」、「募集人員や競争率」、「授業内容」、「身につく知識・技術」、「入試の受験科目と日程」、「取得できる資格・免許と実績」の7項目であった。

考 察

1. 看護学校一日体験入学における「看護体験」プログラムの重要性

体験入学は、欠席はあるものの定員をオーバーする申し込みがあり、県下の高校より3年生を中心として参加していた。また、山口らの研究⁴⁾でも述べられているが、進路選択のための情報入手に役立っていることがわかった。

さらに、体験入学参加者は、プログラム中の「看護体験」が最も印象に残っており、受験の決定や興味・関心を強めることに影響を与えていた。開催年度により、体験内容の設定は異なったが、いずれの体験も楽しく積極的に取り組み、その習得の難しさや妊婦や高齢者の辛さ等よい経験ができたととらえており、内山らのオープンキャンパスに模擬実習体験をとり入れた結果⁵⁾とも一致していた。また、その看護体験や意見交換の場において、具体的な学習内容に触れることができ、在学生の学習態度や学生と教員との関係等も感じとっていた。

2. 大学生活への大学説明会の影響

本学在学生の大学1・2年の「看護学専攻の理由」は、資格取得や仕事や生活に役立つ知識・技術が学べるのが大きく、大学進学のもとも一致していた。

また、看護学校一日体験入学の参加は4割の学生が経験していたが、参加の有無は、大学入学前後のイメージのギャップに影響を与えていなかった。ギャップについては、全体として「どちらともいえない」が半数を占めていた。この結果は、ふれあい看護体験の看護系学校の受験や看護のイメージへの影響をとりあげた山口らの報告⁴⁾からみても、一日体験入学の参加のみでなく、医療施設等での看護体験をしたものが5割以上いることが関係していると考えられる。また、太田らの報告⁶⁾によると、オープンキャンパス以外の大学に関する情報源として「高校の先生」(47%)、「受験雑誌」(45%)、その他「進学塾」「家族」「大学ホームページ」があげられており、多様な方法で高校生が情報入手していることが関連していることが明らかにされている。また、2年が1年よりもギャップが大きくなっていることは、「ギャップ」の理由が「思っていたより勉強が大変」というものが多く、学習進度と学習内容の専門性により強くなっていると考えられる。

大学で得たこととしては、入学当初では「サークル活動やアルバイト・ボランティアなどによる社会経験」と「先輩・後輩・友人関係の構築」について高校生活との違いを痛感し、2年では「先生との出会い」があげられ、しかも「臨地実習」からの学びが大きな位置を占めていたことから、看護に関するイメージのギャップは当然であり、入学前にもつイメージに限界があるといえる。

今回の調査対象は、学年進行中ということで大学1年と2年に限られたため、専門科目の学習進度との関連を把握することができなかった。

3. 大学説明会での情報提供のあり方

入学前に7割以上の学生が必要と思う情報「偏差値(難易度)」、「学部・学科の詳しい内容」、「募集人員や競争率」、「授業内容」、「身につく知識・技術」、「入試の受験科目と日程」、「取得できる資格・免許と実績」の7項目のうち、「授業内容」、「身につく知識・技術」については体

験型の企画が必要と考える。

前田らの文献⁷⁾によると、基本コンセプトをアトラクション形式(随時入退場可能とし、参加者がタイムテーブルを見ながら、興味のあるところを自由に見学できる)をとり、企画内容は講座単位の公開授業、講座紹介や体験学習を実施したり、クイズポイントを設置したり、所在地の紹介ビデオの上映をしている。その結果、25名(78.1%)の参加者からおおむね好評と回答をえたが、「勝手に見る形式よりも説明をしてくれる方がよかった」、「学生が勉強している姿をみたい」や「大学全体が見られず残念」等の意見があったと報告している。

学生が必要であるとした「部活動・サークルの充実度」、「在学生のキャンパスライフの紹介」、「教員のプロフィール・実績」など、在学生や教員とのかかわりにより大学生活を実体験できるプログラムを企画するにあたっては、説明会の方法を工夫する必要があるといえる。

結 論

過去2年間における体験入学の実施結果の分析と在学生へのアンケートの結果から、次のことが明らかになった。

1. 看護学校一日体験入学参加者はプログラム中の「看護体験」が最も印象に残っており、受験の決定や興味・関心を強めることに影響を与えていた。
2. 看護学専攻の理由は、資格取得や仕事や生活に役立つ知識・技術が学べる大きき、大学進学のためとも一致していた。
3. 看護学校体験入学の経験の有無の差は、大学入学前後のイメージのギャップに影響は少なく、「ギャップがあるとはいえない」が半数を占めたが、体験入学以外からの情報入手が考えられることがわかった。
4. 大学で得たこととしては、1年は「サークル活動やアルバイト・ボランティアなどによる社会経験」と「先輩・後輩・友人関係の構築」について高校生活との違いを痛感し、2年は「臨地実習」や「先生との出会い」からの学びができていた。
5. 入学前に7割以上の学生が必要と思う情報は、「偏差値(難易度)」、「学部・学科の詳しい内容」、「募集人員や競争率」、「授業内容」、「身につく

知識・技術」、「入試の受験科目と日程」、「取得できる資格・免許と実績」の7項目であった。

おわりに

看護学校一日体験入学した高校生と大学在学生のアンケートをとおして、その参加状況や受験への影響、さらに入学前後のイメージのギャップ等を明らかにした。

今後、「看護学校一日体験入学」と平成17年度から開催されている「オープンキャンパス」という大学説明会の企画にあたって、大学としての受験生への情報提供のために活かしていくことができると考える。しかし、大学説明会による看護・看護学への理解には限界があることを認識することも重要である。

文 献

- 1) ㈱電通, コーポレート・コミュニケーション局広報室(2003) 受験生の大学進学に関する意識調査(サマリー報告書). <http://www.dentsu.co.jp/>
- 2) 東洋大学社会学部(2002) アンケート調査による学習者の意識と背景. <http://park19.wakwak.com/>
- 3) 第1調査グループ・佐藤, 菊池, 平野(2004) 大学進学希望者の進路選択について. <http://www.nistep.go.jp/>
- 4) 山口美晴, 美坐紘子, 下西澄江, 野村茂子, 谷口久代, 喜多村日富, 福田弘子ほか(2003) ふれあい看護体験が受験動機に及ぼす影響-看護学生へのアンケート調査から-. 日本看護学会論文集第34回看護総合: 66-68.
- 5) 内山久美, 大澤早苗, 横山孝子(2005) 職業的社会化と看護学生の意識-オープンキャンパス参加者の声と入学後の「看護イメージ」から-. 保健科学研究誌 2: 79-85.
- 6) 太田勝正, 石川利江, 野坂俊弥, 前田樹海, 安田貴恵子, 雨宮多喜子(1999) 看護大学選択の際の学生の判断と迷いについて-長野県看護大学在校生へのアンケート調査より-. 長野県看護大学紀要 1: 65-77.
- 7) 前田樹海, 野坂俊弥, 横瀬浩子, 奥野茂代(2000) 長野県看護大学における新しい大学説明会の試み. 長野県看護大学紀要 2: 41-48.

受付日 2005年10月21日